

蘭越町

1329 造田和高

1. 蘭越町の概要と歴史

1.1 地名の由来

1899 年、尻別村（旧磯谷村、現寿都町の一部）から分村して南尻別村となり、1954 年 12 月 1 日、町制施行にあたって役場所在地が蘭越にあることから町名を蘭越町と改称し現在に至った。蘭越とは、アイヌ語の「ランコ・ウシ」がなまったもので、「桂の木の多い所」という意味である。

1.2 蘭越の特色一花のまち

町を花いっぱいにする運動は、花いっぱいの会（会長金子 一憲）が中心となり活動を行っている。花いっぱいの会は指導者の養成、研修会の開催、会員の親睦交流に関する事業を行い、公共花壇への花苗の提供と植込み作業に取り組み、花いっぱい運動の両輪となって活動を展開している。また、町コミュニティ運動委員会では花壇づくりをされている方々（町民）に対してプラグ苗（164,000 本）を 1 本 1 円で提供している

- ・花壇コンクール（全町の花壇を審査）7 月下旬
- ・町内花壇めぐり（バスツアーで花壇めぐり）8 月上旬
- ・春の花苗づくり教室 3 月中旬

蘭越町の花の見ごろは 7 月下旬から 9 月上旬である。

図 1 蘭越町の花壇



出典：蘭越町 HP

1.3 町章

右の町章は 1954 年 12 月 1 日に制定された。中央の花は、高貴にして優雅な蓉楽蘭の花を図案化し、周囲の円はカタカナの「コ」の字を四つ組み合わせて蘭越としたものである。町民は常に明るく優雅で気品にあふれた蘭の花のように心美しく団結し、一円融和の精神で、蘭越町の躍進、発展を表現したものである。蘭越町は、「心一つにみんなで創る 共生と希望のまち 蘭越」をテーマに、いま 21 世紀の幸せづくりを目指して、その基盤づくりを着々と進めている。

図 2 町章



出典：蘭越町 HP

1.4 歴史

1879 年、寿都外三郡役所(寿都・磯谷・歌棄・島牧の各郡)が設置され、尻別はその管轄となるが、翌年の 1880 年、四か村連合が二か村連合となり、横澗村・島古丹村と、能津登村・尻別村の 2 か所に戸長役場と戸長が置かれる。しかし、1882 年にふたたび四か村連合(横澗村・島古丹・能津登村・尻別村)となり、戸長役場を能津登村に置く。1899 年には尻別村を二分して、南尻別村と北尻別村を置くことが告示される。南尻別村戸長役場、目名(現名駒)に設置され、業務を開始する。さらに、1902 年、横澗、島古丹、能津登、北尻別の 4 ヶ村合併して 2 級町村制が施行され、村名を磯谷村とした。

1912 年に山梨団体奥昆布が入地し、開墾に着手する。このあたりから農地開発が盛んになる。徳島県人、敦賀新平ら目国内に移住、水田造成に努力する。1918 年には大谷地に前田村(現共和町)から農家 10 余戸が移住し、造田に努める。1920 年、大谷地の長谷部佐助ほか 32 名、かんがい造田の許可を受けて造田に着手する。

1954 年、南尻別村を蘭越村と改称し、同時に町となる。1969 年は小林町長が渡壇し、サールフエルデン市(オーストリア共和国)市役所において、姉妹都市の締結式を行う。1985 年には「三升漬」が北海道の特産物 100 品目に選ばれ、「ふるさと小包」となる。さらに町民憲章、町の花・木を「こぶし」と指定する。この年、蘭越米の 1 等出荷率が約 83%に達し全道 1 となる。1990 年、北海道主催第 2 回地場農産加工品コンクールにおいて、「しめじ、しいたけ、山菜三升漬」デザイン賞を受ける。1996 年は蘭越町のマスコットキャラクターに、山口真由美の作品が選ばれ、「らんこし」の「ら」と、町の花木「こぶし」の「ぶ」をとって「らぶちゃん」とすることに決定する。

2. 蘭越町の地理と気候

2.1 地理

図 3 蘭越町の位置



出典：蘭越町 HP

図 4 蘭越町の位置



出典：農林水産省 HP

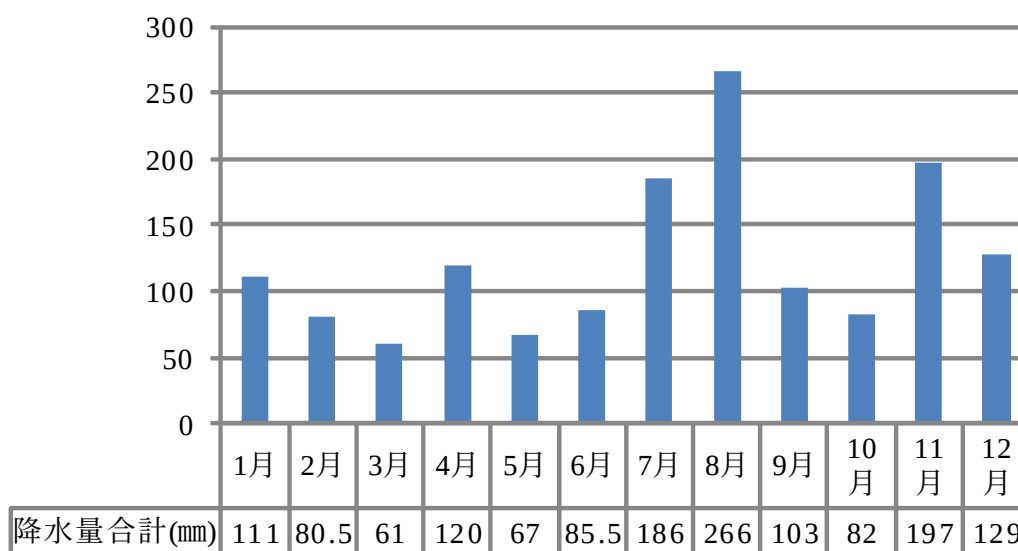
蘭越町は、北海道の西部、後志支庁管内の南西部に位置し、周囲をニセコ連峰等の山岳に囲まれた盆地を形成しており、町の中央を道南最大の河川「尻別川」が東西約 30km にわたり貫流し、日本海に注いでいる。また、その流域に広がる平坦地は、肥沃で水田の耕作に適しており、ここで生産される蘭越米は良質美味で道内外で好評を得ている。

蘭越町は北緯 42 度、東経 140 度にあり、東西に 3km、南北に 5km に亘り位置する。総面積は 449.68km²であり、主な地目別面積は田 35.2km² (7.8%)、畑 9.66km² (2.1%)、宅地 3.19km² (0.7%)、山林 186.82km² (41.5%)、牧場 1.84km² (0.4%)、原野 33.01km² (7.3%)、雑種地 5.19km² (1.2%)、その他 174.73km² (38.9%) となっている。

2.2 気候

気候は比較的温暖であるが、冬は積雪量が多く、特別豪雪地帯に指定されている。また豪雨が降ることもあり、1932 年 8 月 4 日 豪雨のため、2 日間の尻別川流域の雨量 72mm に達した。このため村内各地に洪水が起こり、田畑に大きな被害を受けた。翌 9 月 10 日 ふたたび大雨により出水した。1959 年 9 月、豪雨による被害は全町に及び、田畑の埋没などの被害があった。1961 年 7 月集中豪雨により、床上浸水が約 200 戸、田畑の冠水が 1700 町歩に及び、町内に大きな被害がでた。翌年 1962 年 8 月集中豪雨による被害は、前年を上まわり、2 日から降り続いた雨は、蘭越で 256mm に達して、名駒における最高水位は 9.12m を記録した。下のグラフからも夏場(特に 8 月)の雨量が多い事が分かる。

グラフ1 降水量合計(mm)

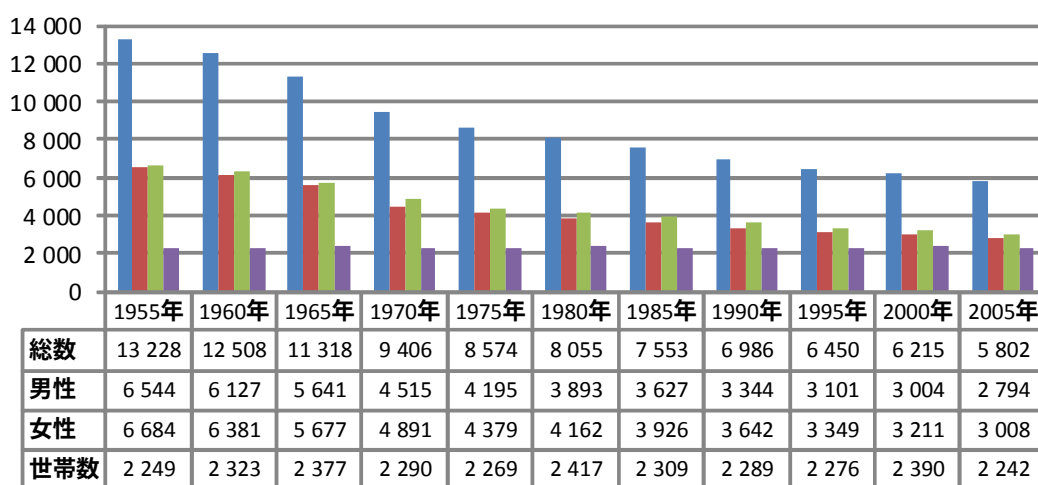


出典：気象庁 HP より筆者作成

3. 蘭越町の人口と世帯数

グラフより総人口は年々減少傾向にある。特に 1965 年と 1970 年の間は大きく減少している。またこの地方は男性より女性の方が、人数が多いことが分かる。世帯数は 1980 年にピークに達しているが、全体的に変化は小さい。このことより、この地方の過疎化が懸念される。若年層の都市への流出により高齢者が多く残ったことと、蘭越町で子供を産む人が減ったことによる少子化が原因ではないだろうか。

グラフ2 人口(人)・世帯数(戸)

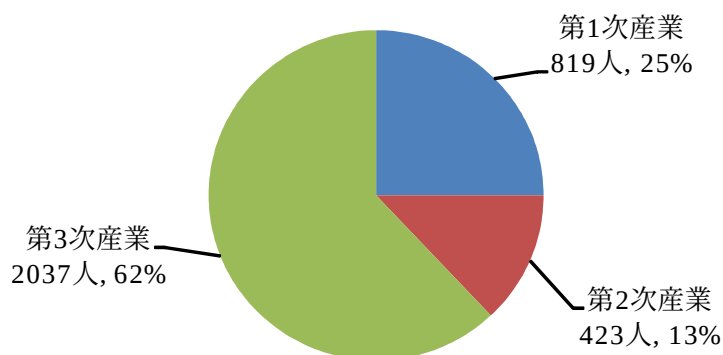


出典：国勢調査より筆者作成

4. 産業

4.1 蘭越町の産業別人口

グラフ3 産業別人口



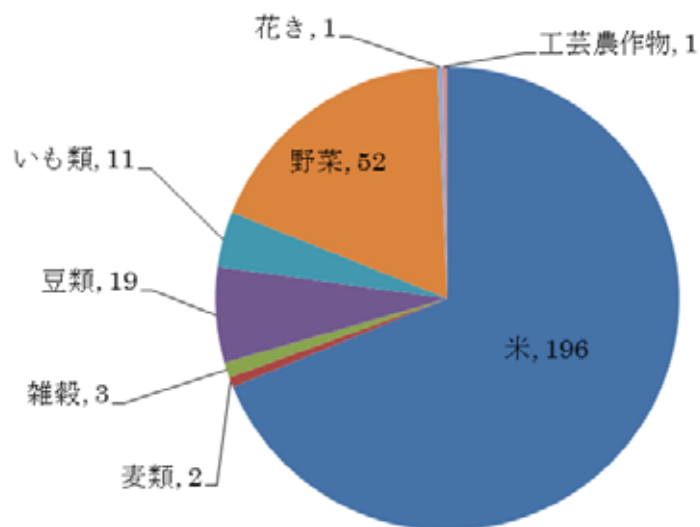
出典：農林水産省 HP より筆者作成

蘭越町は第3次産業が半数を超え、特に多い。次に第1次産業、第2次産業となっている。第1次産業は農業、林業、漁業であり、第2次産業は製造業、建設業であり、第3次産業は卸売業、光熱水道事業、運輸・通信事業、温泉や飲食店などのサービス業である。

4.2 蘭越町の農業

米政策改革の基本指針となる「蘭越町地域水田ビジョン」を2004年4月に策定。蘭越町の基幹産業は農業であり、4年連続清流日本一に輝いた母なる川、尻別川とその支流流域の豊かな沃野に広がる水田約3000haを有している。高台地帯は果菜類などの畑作を行っており、一部肉用牛・牛乳等の畜産農家もある。代表的な作物は、消費者から「おいしいらんこし米」としての高い評価を受け、良食味米として全道的に有名な「らんこし米」である。全体的な傾向としては、稲作中心の経営形態から水田と畑作の複合経営に移行しつつある。近年の農業を取り巻く国際環境の変化や農作物の価格の低迷など極めて厳しい状況にある一方、農家戸数の減少により1戸当りの経営面積は増加している。パワーアップ事業による基盤整備等生産性の向上に努めるとともに、メロン、イチゴ、アスパラ等振興作物の作付け戸数・面積が拡大の傾向にあり、さらにトマト、カボチャ、ほうれん草の栽培による畑作の振興が実を結んできている。

グラフ4 農業生産額（千万円）



出典：農林水産省 HP より筆者作成

らんこし米が有名なだけに、やはり米の生産額が最も多い事が分かる。次に多い野菜の内訳は多い順に馬鈴薯、玉ねぎ、トマト、大根となっている。

4.3 農業人口

農家の総人口は 1464 人で男性は 736 人、女性は 728 人であり、男性の方がわずかに多い。そのうち基幹的農業従事者は男性が 309 人、女性が 266 人の合計 575 人である。基幹的農業従事者のうち 65 歳未満が 361 人であり、男性は 178 人、女性は 183 人である。これより 65 歳以上では男性の方が多いことが推測される。

4.4 らんこし米

らんこし米は米穀品位格付検査の 1 等米で、北海道の評価項目で低タンパク米の定義とされる精米タンパク含有率の 6.8%を下回る米である。また、過剰施肥を抑え、密植栽培で良食味米の生産につとめている。さらに、北海道は夏の気候が本州の様にむし暑くなく病害虫の発生が少ないため本州米に比べ農薬の使用回数が少なく、なおかつ蘭越米は育てる際、農薬を必要最低限に抑えている。保冷庫で、1 年中 10 度以下で保存しており、食味の低下を最低限に抑えることにより自家精米で、注文後精米発送で新鮮なまま食卓へお届けするサービスも行っている。低タンパクでおいしい「らんこし米」のブランド力を高めるため、町は「らんこし米商標登録票」（シール）を作製し、一定の基準を満たした産米の販売から使用を認めることになった。品質を保証する目安ができることで、消費者が安心して「らんこし米」を購入できるようになった。

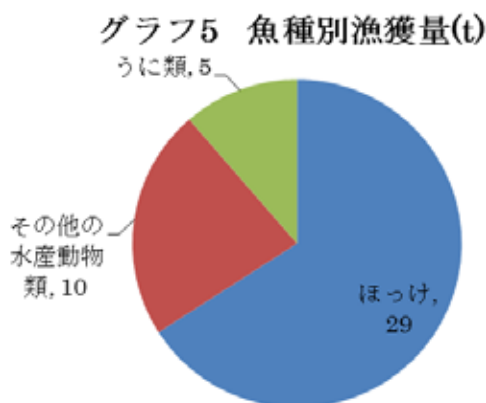
図 5 蘭越米商標登録票



出典：蘭越町 HP

4.5 漁業

漁業においては、ウニなどの水産資源の確保をはじめとする栽培供給基地としての役割を担うべく、長期的視野に立った経営基盤の確立に努力している。右のグラフからはほっけが多く獲れていることが分かる。その他の水産動物はヒラメ・カレイ類、たこ類、あわび類などである。



出典：農林水産省 HP より筆者作成

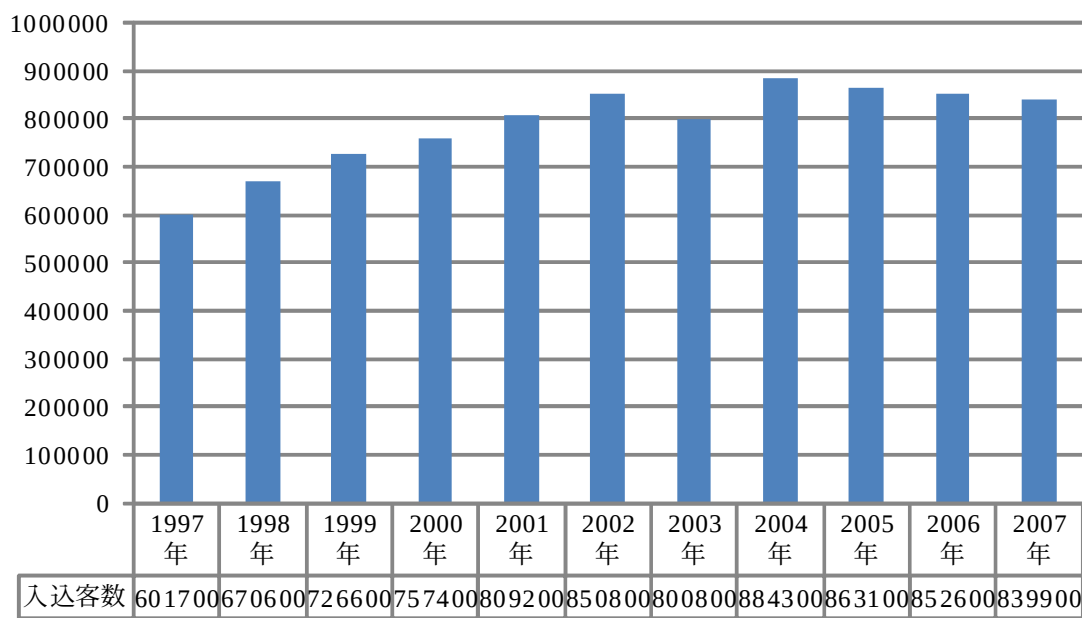
4.6 漁業人口

蘭越町の漁業就業者数は非常に少なく、男性 9 人女性 2 人の計 11 人である。また若者はおらず、一番若くとも 40 代後半である。さらに、65 歳以上が半数を超えており、漁業においてのさらなる高齢化が非常に懸念される。

5. 観光

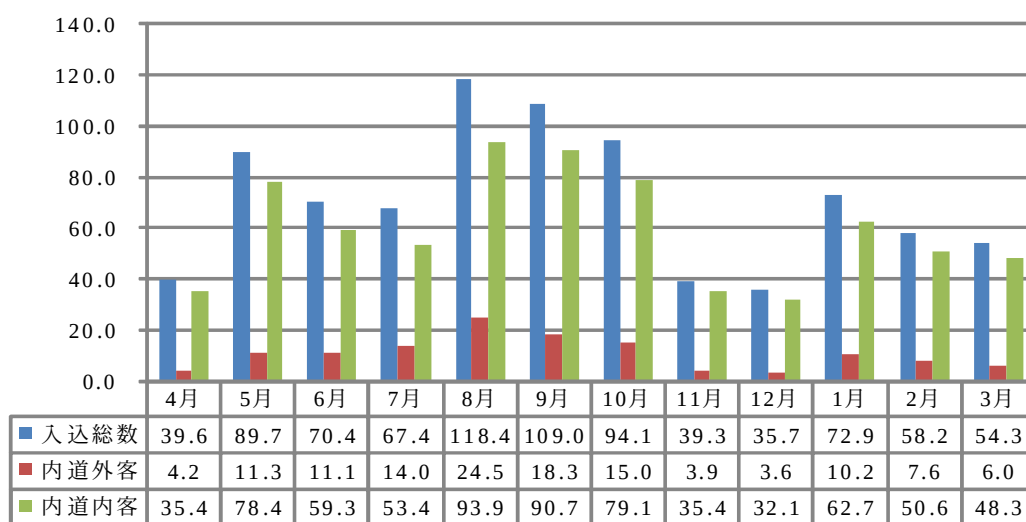
5.1 観光入込客数

グラフ6 観光入込客数



出典：北海道庁 HP より筆者作成

グラフ7 月別観光入込客数(千人)



出典：北海道庁 HP より筆者作成

1997年から2002年にかけて増加傾向にあるが、2003年に5万人減少した。その翌年にはおよそ8万5千人増加したが、それを境に次の年からは緩やかな減少傾向にある。1997

年はインターネットに蘭越町のホームページが掲載された年で、それを見た人が観光に訪れ、観光入込客数が増加したのではないかと考える。最近は減少傾向にあるが、それでも80万人を超えている。また、月別に見てみると、夏場が最も多い。それ以外にはゴールデンウィークのある5月、お正月のある1月も多い。さらに、道外客より道内客が多いことも上のグラフから見て取れる。

5.2 観光スポット

5.2.1 大湯沼自然展示館

ニセコの温泉の源泉である大湯沼の紹介をはじめ、周辺の自然の生態なども学ぶことができる自然研究の実体験型施設である。施設には2つの展示ゾーンと映像ゾーン、展望コミュニケーションゾーンがある。北海道最大級の大型ジオラマ模型で紹介する大湯沼のふしぎを探り、100インチ8面のマルチシアターで自然の生態を学んでニセコの自然博物誌を見学できる。施設内中央にはシンボル「杜の大老樹」が設置され、自然や生命のすばらしさや尊さ、自然を大切にする心を語りかける。

図6 杜の大老樹



出典：蘭越町 HP

5.2.2 貝の館

貝をイメージしたユニークな外観がひととき目をひく貝の館。約5億年前のオルビス紀の海を代表する貝、オウム貝の祖先であるチョッカクガイの全長5m大の復元模型を中央に展示。古代の海が美しく体験できる。全国五百数十市町村・個人の方々より寄贈された30,000個もの貝の内、常時1,500種類、5,000個を展示している。主な展示資料は殻の重さが194キロもあるオオジヤコガイ、「世界五名宝」「日本三名宝」と呼ばれるタカラガイの仲間など世界の珍しい貝が1,500種5,000点ある。その他チョッカクガイの模型や、映像学習資料などで、貝の生態、人間との関わり方などを分かりやすく開設している。

図7 チョッカクガイ



出典：蘭越町 HP

5.2.3 幽泉閣

幽泉閣は、昭和33年から営業している蘭越町に古くからある温泉である。地域に密着した温泉施設で、町民や近隣町村の利用者の他、夏にはゴルフをされる方、冬にはスキーを

される方が遠方から来られるなど、色々な地域の方々にも愛されている温泉施設である。バリアフリー対応の客室もある。また、幽泉閣は、「美人湯温泉」として有名であり、温泉に入ると肌がすべすべするという事から、女性に大変人気がある。『幽泉閣』の名称の由来は「幽」の字は「奥深い」、「かくれひそむ」といった意味があり、奥深い温泉、かくれひそむ温泉の意味を秘め、この名称となった。

図 8 幽泉閣



出典：蘭越町 HP

5.2.4 大沼

標高 850m、卵形の水面にイワオヌプリや緑の木々を映し出す。ニトヌプリとワイスホルン、イワオヌプリに囲まれてたたずむ沼で、五色温泉郷から湯本温泉郷までの 13.5km の「ニセコ沼めぐりコース」を五色温泉郷側からスタートすると初めて出合う。湖面には荒々しい山容を見せるイワオヌプリなど、四季折々に変化する森の姿を映すが、特に秋の紅葉時期が美しい。エゾサンショウウオが生息している。

図 9 大沼



出典：蘭越町 HP

参考HP

蘭越町 HP：<http://www.town.rankoshi.hokkaido.jp/>

Wikipedia：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%98%AD%E8%B6%8A%E7%94%BA>

北海道庁 HP：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

農林水産省 HP：<http://www.maff.go.jp/>

気象庁 HP：<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

幽泉閣：<http://www7.ocn.ne.jp/~yusenkak/yusenkaku/index.htm>